

北沢小学校の統合時期に向けた話し合い（第3回）の
開催結果について

1. 開催概要

(1) 開催日時 平成 28 年 10 月 19 日(水) 午後5時30分から午後7時30分

(2) 開催場所 北沢小学校 ランチルーム

(3) 参加者数 学校運営委員・PTA役員・北沢地区町会長等 10 名、区教育委員会・学校
長・副校長 10 名、傍聴 14 名

(4) 内 容

10 月 3 日に行った北沢小学校通学区域から下北沢小学校(旧東大原小学校)への通学路
点検の結果を報告し、質疑応答を行った。その後、北沢小学校の統合時期について、意見
交換を行った。なお、今回も区側及び住民側の共同司会により議事進行を行った。また、今
後の日程について、10 月 20 日(木)には、北沢警察が担当する交通規制の部分について合
同点検を行うこと、第4回は、11 月 8 日(火)午後 5 時 30 分より、ランチルームにて行うことを
確認した。

2. 通学路点検の報告について

10 月 3 日は丁目ごとに 3 グループに分かれて点検を行ったため、報告についても各丁目ご
とに行った。

[北沢 5 丁目]

前回宿題となっていたスクールバスについては来週京王バスと話し合いを行う予定である。
8 日には何らかの考えは示せると思う。

資料 1、2 のとおり「A～F」について報告を行った。補足として、
通学路誘導員を、資料 2 の地点に加え、資料 3 のとおり、井の頭通り沿いの、信号のある 2
箇所にも必要ではないかという意見があり加えた。

[北沢 4 丁目]

資料 1、2 のとおり、「あ～け」について報告を行った。補足として、
い:当初通学路案として提案したが、資料 2 の状況に加え、鎌倉通りに入る地点には横断歩
道がない状況であった。それよりも、既に横断歩道やカラー舗装がなされている、「お」の地
点で横断をしたほうが良いという意見があったため、資料1の点線を通学路案として提案す
る。

き:「止まれ」の路面表示が劣化しているため引き直しをするよう、10 月 20 日の合同点検で
北沢警察へ要望する。

[北沢 3 丁目]

資料1、2 のとおり、「1～3」について報告を行った。補足として、
2:既存の通学路であるが、従来と違う方向に歩く形になるため、注意喚起等を行っていくこ
とを確認した。

3-②:表から抜けてしまっているが、3-①に加え、3-②にも通学路誘導員を配置したい
と考えている。

3.通学路の安全対策に関する主な質疑応答

質 疑 応 答	◇ :住民側
	➤ :区側
	[北沢 5 丁目]
	◇ 若竹保育園前の植栽が道路にはみ出てしまっており通りづらい。子どもたちが歩く スペースの確保のためにも伐採することは可能か？
	➤ 担当所管へ伝える。

- ◇ 渋谷区との区界(北端側)を歩いても良いのか？
 - 通学路については、基本的な通り道をお示ししている。通学路に至るまでにどのようなルートをとるかは各家庭で判断して頂く。
また、何かあった際の対応のため、学校へ通る道を連絡してもらっている。
- ◇ 鎌倉通りは通学路にしないということか？
 - 鎌倉通りについては横断するだけ、と考え提案した。もし通るほうがより良いということであればご提案いただきたい。

[北沢 4 丁目]

- ◇ 実際に歩いてみると、北沢小の区域外のことは分からないことが多いなと感じた。子どもたちが迷わないか、坂の上り下りや雨、風の日は大丈夫だろうかと不安に思った。
- ◇ 27 番、29 番のクランクになっている箇所は坂もあり、車通りもあるので指定せずに他の道にしたほうが良いのではないか。
 - 現状で通学路になっているため、希望があれば指定から外してもよいと考えている。
- ◇ 毎日この辺りを歩いているが、小学生にはこのくらいの坂ならどうってことないように思う。神経質すぎると思う。
- ◇ 資料 1 では案になっていないが、井の頭通りの南側(北沢中向かい)についても指定して良いのではないか。井の頭通り沿いに住む児童をわざわざ路地へ通す必要はないのではないか？
 - 井の頭通りは自転車の通りが多いと聞いているがどうか。
- ◇ 確かに多いので、5 丁目の案のように、自転車が通るゾーンを設ける等何らかの対策をして欲しい。4 丁目については、結局は井の頭通りで渡るか、「お」の地点で渡るかのどちらかだと思う。
- ◇ 同じく、井の頭通りで渡った方が近いとは思いますが、やはり自転車が不安である。自転車のレーンを設けたり、歩道にいじわるポールを設けたりしてほしい。
 - 5 丁目と同様に、井の頭通りについては、都へ相談していく。

[北沢 3 丁目]

- ◇ 茶沢通りの曲がり角のところは、今回通学路に指定しなかったとしても、日常生活で通ることはあるので対策を講じてほしい。
 - 関係部署へ伝えていく。
- ◇ 3-①について、横断歩道や信号に加え、子どもがたまるスペース等も考えると、電柱の撤去やカーブミラーの設置もお願いしたい。また、交差点が坂道になっているが、横断歩道はどの辺りに設置するのか？
 - 車が入り出すること踏まえ、設置箇所については配慮していきたい。
- ◇ 3 丁目の南側に住む子どもは、3-①まで行かずに、22 番 18 番の地蔵があるところで横断してしまうかもしれない。また、19 番の子どもは一番街のほうから行くかもしれない。そういったことも踏まえて、茶沢通りの横断はしっかり考え対応して欲しい。
 - 茶沢通りの横断等の関係については、20 日の合同点検でも確認していく。

[その他]

- ◇ 点検日時に疑問がある。朝や夕方では街の様子も変わると思う。今回やって終わりということにはしないほしい。
 - 教育委員会だけでは把握しきれない部分もあると思うので、地域の方々の目線でご意見やご提案をいただけると非常にありがたい。今後もそういったご意見も踏まえ、関係所管と相談しながら、引き続き取組みを進めていきたいと考

	<p>えている。</p> <p>◇ 当日はどのくらいの人数が参加したのか？</p> <p>▶ 各丁目ごと約 10 人ずつ参加していただいた。ほとんどがPTAの方であった。区側は教育長や土木管理事務所も参加している。</p>
--	---

4. 統合時期の決定等について

今回の話し合いの経緯についての質問もあり、改めて教育委員会の考えを説明した。

統合の件については、第2ステップ策定から今年で 4 年目を迎えているが、北沢小の統合の時期については未定となっていた。そのため未就学児の保護者などから不安の声を頂いていた。また、北沢小・下北沢小の教員とも話し合いを行い、平成 30 年度に下北沢小の新校舎が出来上がるタイミングで 2 校が一緒になることが、子どもたちにとって負担が一番軽く、円滑な学校運営に取り組みやすいと判断した。また、統合時期を明確にしないまま時間が過ぎていく状況は北沢小の学校運営にも支障をきたすことを懸念している。以上のことから、教育委員会としては、平成 30 年 4 月を統合時期の目安とさせていただきたいという提案である。

以上の説明を踏まえた主な意見

意見要旨	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成 30 年に新校舎ができることは以前から分かっていたことだと思う。なぜ今になってこれを理由とするのか理解できない。保護者が不安に思うと言うが、逆に不安を煽っているのではないか。仮に 10 年後なら 10 年後と決めれば良いだけで平成 30 年にするという説明の理由にならない。 ・ 単学級がよくないというが証拠はあるのか？ ・ 現在単学級だが、少しずつ子どもたちが増えてきていると思う。上手くいけば複数学級になるかもしれない。それでも統合してよいのか。 ・ 通学路の危険が多い。安全対策と言っているが、登校時間も長くなり、何かあったときに責任をとれるのか。100%安全というのは難しいとしてもリスクを減らすべきだ。 ・ 3 年前に 10 年程度様子を見るとなってから、どういった状況でこの話し合いになっているのか、不明瞭だと思う。通学路等の具体的な話になっていくのではなく、なぜこのような話し合いになっているのか理由を説明してほしい。 ・ 統合時期の話し合いと聞いて来たが、通学路の点検の話し合いで驚いた。子どものことを第一に考えてほしい。 ・ 北沢小の統合時期については、3 年前に 10 年程度推移を見ると区の決定があったが、数ヶ月後に教育委員会としては、平成 30 年度の統合が望ましいという文章が出されていた。それにより混乱が生じたのだと思う。今回の通学路点検のように、外堀を埋めていくようなやり方はどうかと思う。時期を決めてからでも遅くないのではないか。 ・ 統合時期については、先生方の教育観もあるだろうから、地域として明確なことを言うべきではないと思う。賛成反対ではなく、保護者やPTAの様々な意見を出してほしいと思う。 ・ 教育環境のことを考えるなら、北沢中のことも含めて考えてほしい。 ・ 後利用のことを考え、あまり空白期間を設けずにやっていくのなら、構想や計画等のスケジュール・工程表を示し、その上で平成 30 年度統合を提案してほしい。子どもがいなくなり、この場所が使えなくなると、地域の人の活動も難しくなる。ここは学校の施設であると同時に社会教育的な施設でもあるし、教育委員会も当然そう認識していると思っているので、統合した後ぱっと何も使えなくなってしまうらおかしい。そこまで見据えて案を出してほしい。そういったことをした上で、下北沢小と統合するというのであれば何も言わない。
------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 統合による学力面への影響は一面的なことだと思う。小規模校には小規模なりの良さがある。 ・ 新入生で下北沢小へ行きたいという子どもがいるというが、指定校変更を簡単に認めてしまっているのではないかと。複数学級になるよう取り組んでいるのか？ ・ なぜ指定校変更を許可するのか理由を聞きたい。 ・ 自分の周りには指定校変更を申請したが、認められなかったという人もいた。 ・ 混乱を招いているのは、10 年程度としたのを平成 30 年度としたからではないか。納得できないし、急いで統合する必要はないのではないかと。 ・ 北沢中も単学級になったら統合対象となるのか？ ・ 統合時期を決める話し合いということで始まったが、道筋が示されていない。どのように決めるのか工程表を示してほしい。また、保護者が意見を出し合う場所を設けた方が良くと思う。 ・ 後利用については、具体的な文書にして出してほしい。 ・ 後利用については、避難所の機能を確実に残してほしい。決定権のある人の言葉が聞けていない。 ・ 色々な立場の人が意見をだしあう必要があると思う。北沢地域は全体として子どもが減ってくると思うので、個人的には、子どもたちが大勢で生活する良い機会になると思う。
<p>回答要旨</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度守山小と東大原小が統合し、これまで子どもたちを見てきたが、勉強や運動等様々なことに取り組む意欲が、より出てきたように感じている。人数が増えたことが刺激になり、子どもたちが切磋琢磨するようになってきたと実感している。また、教員においても授業力があがってきていると思う。これは下北沢小として良くなっていることだと考えている。 ・ 北沢小は小規模校であるが、子どもたちや教員は小規模校なりに一生懸命がんばっている。ただ、クラスの入替えがないため、毎年どこかの学級で人間関係等で上手くいけなくなる事例が散見されるため、各担任は危機感をもって学級経営に臨んでいる。そういった場合、適正規模であれば、振り分けることもできるがそれができない。また、勉強・運動・人間関係といった面でクラス内での立ち位置が固定化してしまうという危機感がある。 ・ 平成 30 年度に下北沢小の新校舎が完成するのを見据えて、保護者の中にはそちらに移りたいという考えがあることも聞いている。そうすると現在在籍している子どもたちの中には寂しい思いをしてしまう子もいるのではないかと考えている。 ・ 来年度の通学区域内の新入生は 36 名だが、既に複数名下北沢小への入学希望者がいる。私学へ行く子どもも考えれば来年度は 1 学級になってしまう可能性がある。 ・ 統合時期については、新しい校舎に移るといふ両校どちらにとっても環境が変わるタイミングがベストだと考えている。この時期を逃すと、下北沢小の児童の結びつきが強くなり、北沢小の児童たちが入りづらくなってしまふことが懸念される。 ・ 環境が変わることは、子どもたちの人間関係が変わる大きなきっかけとなると実感した。統合後、不登校だった子が学校に来るようになったことはとても大きなことだと感じている。 ・ 平成 25 年 9 月に 3 校の統合を決定し、北沢小については、統合時期を 10 年程度推移を見るとした当時から、平成 30 年 4 月に新校舎ができることを踏まえて、統合時期を検討してきた。両校長が話したように、未就学児の保護者から北沢小の統合時期についての質問が多くあったこと。今年 4 月に下北沢小が開校し、2 つの学校が 1 つになるという環境の変化は教職員や関係者には大変だったと思うが、子ども

たちにとっては良い結果がでていること。こういったことを踏まえて、「平成30年に下北沢小の新校舎が完成するタイミングで統合することが、子どもたち同士の交流を活性化させる機会として最適である」と、両校長から聞き、実際に現場も見て、統合時期を考えた。平成30年4月は策定から6年目となるが、この時期が子ども、保護者、学校のためになると、教育委員会として考え、お示した。このことは昨年7月に学校関係者に非公式にお話し、今年に入ってから下北沢小の様子を見て、関係者や、各校の教職員に話をした。その後、PTA、学校運営委員、町会と個別にお話し、話し合いの機会を別に設けて、本日で3回目の開催となる。

- 区の施設の後利用については、政策企画課が担当していることもあり、前回の話し合いでは担当の課長も出席し、一般的な後利用の考え方について説明を行った。その際の資料には、売却が考え方の一つとしてでていたが、担当の課長は、「売却はしない。学校跡地ということで、地域コミュニティの核となり、子どもの声が聞こえるような施設を念頭にしている」と話していた。また、後利用のスケジュールを示してほしい、ということだが、こちらから提案するよりも、守山小や花見堂小のときのように、ご意見を聞き、相談しながら一緒に進めていくほうが良いと考えているのではないかと。
- 指定校変更は、保護者から学務課へ相談し、学務課で許可の判断をするため学校で判断するものではない。校長個人としては、北沢小学校に入学が不明確なご家庭を訪ね、入学意思の有無を確認するなどの作業に取り組んでいた。
- 北沢中については、30年度に通学区域を広げ、対象児童を増やす努力をしている。学び舎同士の連携をとり魅力アップを目指して取り組んでいる。北沢中が統合となった場合、通学区域としては、富士中・梅丘中への通学となってしまいうので、なるべく北沢中の生徒数が増えるようにと考えている。
- 後利用で避難所機能を設けるかどうかは、確かに教育長の判断で決められないが、これまでの学校が避難所として担ってきた役割を教育委員会としては認めている。花見堂小の跡地では、避難所機能を残すという教育委員会の要望を区の中で認めてもらっている。北沢小においても地域の中の学校でもあるということは十分理解しており、避難所機能を残していくよう強く要望していく。

話し合い当日の資料については、区HPよりご確認ください。

くらしのガイド > 子ども・教育 > 小・中学校 > 教育環境の充実 > 学校の適正規模化・適正配置

<http://www.city.setagaya.lg.jp/kurashi/103/133/524/d00128905.html>